

9月16日(土)夜『神聖で繋がり合う日』 メール前文

今日までの永い間、99.99999%以上の人類は、「私とはこの体であり、私が自分の力で人生を切り開いて生きているんだ」と勘違いをした意識で肉体自我を謳歌して生きてきました。その結果として地球人類は、自然を破壊し他の生物たちを追いやり、自己等の生活基盤である地球そのものをも壊滅状態へ追い込まんとしています。

一方、地球に神聖文明を展開する使命を帯びて地球へ来た私たちは、それぞれの時代を守り次の時代へバトンを渡すべく、然るべき年代に生まれそれぞれの時代を陰から支えてきました。ここで、世界の完全平和を心底から願い、寝ても覚めても人類意識の目覚めを念(おも)いつづけて生きてきた私たちの歩みを、ざっくりとした年表形式で振り返ってみます。

- ・1955年前後から1990年前後までの約35年間に、私たちは守護霊・守護神にすべてを任せ導きのままに生きるという生き方を学びました。
- ・また、1990年前後から2025年前後までの約35年間に、私たちは守護霊守護神の導きの下で、神我（真我）を開発して生命の本質を思い出してゆく道を歩みました。
- ・そして、2025年前後から2060年前後までの35年間に、私たちは守護霊・守護神との一体化を果たした神性人類としての道を切り開き歩むことになります。

2022年現在の私たちは、未だ旧態依然とした常識が幅をきかせる世界の中で、近未来の人類が歩むべき生き方（道程）を先行して歩んでいます。

なぜそのような生き方をしているかと申しますと、80億人以上ともいわれる世界人類全員が神聖を思い出し甦らせて生きる時代を切り開くためには、それ相応の人数のお手本が必要だからであります。（あの世の未成仏魂魄(こんぱく)も併せれば膨大な人数になります）

お手本がどこにもなければ、人類は路頭をさまようばかりです。また、お手本が一人や二人でもまったく足りません。数十人や数百人でも足りません。人類個々の人間性が多岐に渡るからです。

私たちの奥にある俯瞰の視座たる神聖意識は、最低でも数千人のお手本になる人たちが、見本となる生き方を示す必要があることを知っていました。（私たちの心の深奥にあるいのちの光は、数万人から数十万人の神人を求めています）

地球世界に輝かしい未来を築き上げるためには、様々な性格・性質・性癖をもった人たちが、神聖へ通ずる道を切り開く必要がありました。それが私たちだったのです。私たちはロボットのように画一的ではない唯一無二の個性をもって、今ここに神聖を発揮しながら生きています。私たちが切り開いた道は、必ず次の世代、次の次の世代を助けることになります。なぜなら、それが人類の在るべき本来の生き方だからです。

土曜日の夜は、次の世代、次の次の世代のために、あらゆる未成仏階層に神聖の息吹を吹き込み、大自然と生きとし生けるもの達が息を吹き返すと共に、人類ひとりひとりが神聖を思い出すきっかけとなる光を発神してまいりたいと思います。

9月16日(土)夜 [ZoomLetter:01615] 連絡事項 から

今夜の祈りの会にご参加の皆様へ

【①今夜の祈りの会について】

今夜の祈りの会では、イメージで組む印を誰もが堂々と組めるようになる共磁場を創る取り組みをいたします。

どういう経緯でそのような流れになったのかと申しますと、昨夕、土曜日夜の台本を書いておりますが、指が事前にイメージしていた言葉と違う文章をキーボードに打ち込み始めました。

そこで指の動くままにしばらく打ち進めたところ、ようやく状況が飲み込めるということがありました。それは次のようなことです。

予定では、次の世代、次の次の世代にバトンを渡す下地となる状況を整えるための意識の用い方、祈り方を想定していました。

しかし私の手が書き上げた台本の草稿は、「それ以前のこととして、今やるべきことがあります。それは、お体が不自由でも、世界平和のためにいのちを燃やして働くことができる共磁場を創り上げることであります。」と書いていました。

また、「その理由は、潜在的に地球上に点在している”未来を牽引する若い世代”が、まだ十分に表面化してきていないので、七十代以上の方々のお力はまだまだ必要だからです。」と打ち込まれたのを見て、私自身も「なるほど」となりました。

そのまま打ち進めますと、「そこで、この趣旨にご賛同いただける方は私とご一緒に、今夜は腕を動かさずに印の動作を心の中で画いて、ご一緒にイメージで印をお組みください。「いや、私は印を組みたい」と思われる方は、どうぞご自由にお組みください。」と打ち出されました。

ここではっきりと申し上げたいことは、このやり方は、公に推奨されているやり方ではありませんし、そうしなければいけないというものでもないということです。

今夜この取り組みを行なう理由は、前述のとおり、イメージで印を組むことに対する抵抗を薄め、みんなが堂々とイメージの印を組むことが出来る共磁場を作るために、今夜一回だけ行なう、というものです。

ですから、繰り返しになりますが、ご賛同いただける方だけイメージの印を一緒にお組みくださるよう、お願いいたします。

9月16日(土)夜『神聖で繋がり合う日』 始まりの話

皆さま、こんばんは。夜の Zoom 祈りの会を始めます。最近とみに、年齢や持病、自らの困難な境遇などが理由で、お元気を無くしかけておられる方々の話を色々と聞き及んでおります。私たち人間は、今まで出来ていた“行動を伴う活動”が出来なくなったときには、つついガッカリしてしまうことがあります。

それに関して私が時折思っていることは、「もし自分が体を自由に動かせなくなったら、何を思いどう生きるだろう？」ということです。それで、よくよく考えてみましたら、私たちのこの世における最大の仕事は『祈り』であります。祈りというのは、皆様もご存じのとおり、いのちの光を十二分に響き出すことです。印も祈りの一種です。

祈りは体が不自由でも、自由に出歩けなくても出来ます。印も手を動かさなくても、動きを心の中で思い描いて組むことで、手を動かして組む印と同等の効果を得ることが出来ると言われてます。そこで、昔は出来ていたことができなくなった場合には、そのようなことは出来る方々にお任せして、心の奥の神聖と深く繋がり、それを発揮することに“いのちのエネルギー”を使うように、発想の転換をしてみても如何でしょうか？

私たちは、体を動かさなくとも、イメージの力で印を組むことが出来ます。お祈りも同様であります。Zoom 祈りの会でも、「腕が上がらないなあ」「体を動かすのが辛いなあ」と思われましたら、どうぞお座りになって、膝の上の如来印など、楽な姿勢でご参加ください。

メールでもお知らせしましたが、本日は実験的な取り組みとして、すべての印を、手を動かさずに、心の中で印の動作を思い描きながら行なってまいります。手を動かして組む印を『動の印』としましたら、イメージで組む印は『静の印』であるといえます。

印を組む方々の中には、もしかしたら、イメージで組む印を低く見て、抵抗を感じておられる方もいらっしゃるかも知れません。しかし今、健康な方も、この『静の印』を自分のものにしましたら、バスや電車・汽車の中でも、お風呂でもトイレでも、布団の中でも、お茶の間でくつろぎながらも、いつでもどこでも手を動かさない状況の中で印を組むことが出来ます。

また、私たちがイメージで印を組むとき、私たちの霊体や神体も同時に印を組んでいます。ですから、肉体を動かしていないだけで、私たちのいのちの奥にある光の体は印を組んでおります。そこで本日は、そのようなことも意識しながら、『静の印』の共磁場をつくる取り組みを行なってまいります。

もちろん、印を組む組まないは、ご自由ですので、ご自身がどうされるかはご自分でご判断ください。たとえば、印を組むことでその取り組みを応援しようと思われましたら、それも有り難いことですので、どうぞそのようになさってください。

本日は、私も印の動作をまったく行ないませんので、ご賛同くださる方におかれましては、イメージの力を最大限に用いまして、また印を組まれる方はいつものように、地球にかかわるすべての状況や、それらに対する様々な想いを宇宙から俯瞰しながら、脳裡に浮かぶ批判・非難・評価の想いさえも流れる雲のように見つめつつ、次元の垣根を越えたいのちの源の光を放ってまいり

たいと思いますので、よろしくお願いします。また、印のときの手は、如来印のままでも、胸の前の合掌でも、そのほかの形にしていってもご自由ですので、ご随意になさってください。

それでは時間になりましたので、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。三分半の CD を使って行ないますので、眼を閉じて神聖の視座に焦点を合わせてお祈りください。私が「はい、ありがとうございます」と申し上げましたら、目を開けてください。それでは始めます。

9月16日(土)夜『神聖で繋がり合う日』を終えて

9月16日(土)の夜、布団に入って「そうだ、イメージの印を組んでみよう」と思い立ち、呼吸だけをしっかりと行ないながら、心の中で印の動作を思い描きながらイメージの印を組んでみました。

そうしましたところ、それ以前にはなかったことですが、くっきり明瞭に印の動作をイメージで思い描くことができ、腕を動かして組む印と変わらない感覚を受けました。翌日曜日朝も同様でした。

また、妻が翌日曜日に外出した際に、電車の中でイメージの印を組んでみたところ、私と同じ感想を抱いたとのことでした。

そのようなことは今までなかったため、「これが共磁場を創るということなのだなあ」と得心すると共に、Zoom、YouTube、Fax でご参加くださる 200 名以上の方々のお力のすごさをあらためて痛感した次第です。

私個人の感想といたしましては、「9月16日(土)夜の取り組みで、イメージの印の共磁場が出来上がり、これからの私たちは、これまでより多くの印を組む機会を得た」と感じております。

皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

無限なる感謝

斉藤雅晴